



合理的配慮・はじめの一步

—学校における合理的配慮の提供のプロセス—

相談窓口（特別支援教育コーディネーターや学級担任など）を学校だより等により周知

本人・保護者からの意思の表明

○ 要望の把握
本人・保護者の要望を聞き取り、記録して整理

○ 詳細な実態把握
【内容】興味・関心、学習上又は生活上の困難、健康状態等
【方法】行動観察（授業やその他の場面の様子等）、聞き取り（面談、引継ぎ資料（個別の教育支援計画・個別の指導計画等）、関係機関から得られる情報）、諸検査等

○ 要望内容についての検討
学級担任及び特別支援教育コーディネーター等を中心に、本人・保護者と検討
【検討事項例】
* 学校の基礎的環境整備はどうか。
* 合理的（必要かつ適当な変更・調整）かどうか。
* 体制面・財政面から均衡を失した、又は過度の負担になっていないか。
* 申出を踏まえた、合理的配慮の内容となっているか（代替案の検討も含む）。

調整

合意形成を図る際に、校内体制による検討が必要な場合

校内委員会等、組織的に対応

本人・保護者と学校との合意形成

合理的配慮の決定

○ 決定した合理的配慮を個別の教育支援計画に明記
○ 個別の指導計画に活用（いつ、誰が提供するか具体化）

合理的配慮の提供

○ 教職員で組織的に提供
○ 合理的配慮を提供しているときの本人の様子や、提供した後の変容を記録

定期的な評価

○ 十分な教育が提供できているかの観点から評価
○ 個別の教育支援計画・個別の指導計画を活用しながら評価

柔軟な見直し

○ 本人・保護者と、合理的配慮の有効性と今後の提供の方向性について確認

本人・保護者からの意思の表明がなくても、教師の見立てがきっかけになる場合があります。

合意形成に向けた、本人・保護者との建設的な対話が必要です。

合意形成が図られたことを随時、校内で情報共有します。

定期的に個別の教育支援計画に基づく評価・見直しをすることが重要です。

※ 合理的配慮の提供のプロセスは例であって、各学校の校内体制や本人・保護者の意思の表明等、実情によって異なる場合があります。

【講義パッケージ】



合理的配慮を考える際に押さえておきたい基本的な内容についてのプレゼン資料等です。各学校の状況に応じて、必要な内容の研修を計画的に行いましょう。

講義パッケージには、「講義の進め方」「講義用スライド」「講義用説明原稿」「講義用配布資料」があります。

番号	内容
1	共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム ～法令・理論編～
2	共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム ～合理的配慮・基礎的環境整備編(1)～
3	共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム ～合理的配慮・基礎的環境整備編(2)～
4	共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム ～Q&A編～
5	実態把握のポイント

【演習パッケージ】



事例を基に、合理的配慮を考えるための演習に使用する資料をまとめたものです。子どもの実態や学校の基礎的環境整備を踏まえて、合理的配慮をグループで考えてみましょう。

各資料
① 演習の進め方
② 合理的配慮の例（音楽会バージョン）
③ 基礎的環境整備・合理的配慮の観点の一覧表
④ 学校における合理的配慮の観点（障がい種別ごと）
⑤ 協議用ワークシートとその検討例
ア「集団活動」（幼稚園）
イ「板書」（小学校）
ウ「交流及び共同学習」（小学校特別支援学級）
エ「宿題」（小学校）
オ「授業の取組」（中学校）
カ「話し合い活動」（高等学校）

【参考資料】



合理的配慮の提供を考える際に、参考となる手引き、チェック表、様式等です。必要に応じて活用しましょう。

内容	資料名等	作成者
特別な教育的ニーズのある子どもの特性の理解と支援	講義資料 ＜インターネットによる視聴講義＞	独立行政法人国立特別支援教育総合研究所 発達障害教育推進センター
地域や関係機関との連携	理解啓発資料 「えひめの特別支援教育」＜冊子＞	本県教育委員会特別支援教育課
実態把握	実態把握資料＜チェック表＞	本県教育委員会特別支援教育課
	授業場面での児童の実態把握 ＜エクセルシート＞	本センター
個別の教育支援計画、 個別の指導計画	個別の教育支援計画＜様式等＞ 個別の指導計画＜様式等＞	本県教育委員会特別支援教育課
	個別の教育支援計画の作成と活用 ＜手引き＞	本センター